

# 令和元年度・内航タンカー船員実態調査報告書

令和2年4月10日

全国内航タンカー海運組合

船員対策委員会

— 目 次 —

はじめに	…	1
1. 回答状況	…	2
2. 年齢構成（乗・下船中の分類）	…	4
3. 年齢別船員数及び割合の推移（10年間）	…	5
4. 総トン数・船種別平均年齢（乗船中船員）	…	6
5. 職種別平均年齢（乗・下船船員の合計）	…	9
6. 入社歴及び前職	…	10
7. 採用・退職関係	…	13
8. 海技免状保有状況	…	16
9. 船舶料理士保有状況	…	16
10. 船員不足の考察	…	17
11. 船員対策委員会からの提言	…	18

はじめに

全国内航タンカー海運組合では、船員の高齢化に伴い、若年船員の確保、船員不足への対応、関係者の理解促進に役立てることを目的に、毎年**10月1日現在**における内航タンカーに乗船中の船員及び下船中船員の年齢構成、採用・退職状況等を調査しています。(平成17年に調査開始)

令和元年度も、運送事業者(オペレーター)を經由して船主(オーナー)に調査票の提出ご協力をお願いいたしました。今年度も回収率を上げるべく、本部・支部事務局、対象事業者の協力を得て何度も提出をお願いしました結果、**回収率は79.1%(対象1,029隻の内、814隻の回答)**と、**ほぼ前年度並み(前年79.6%)**の回答を得ることが出来ました。

回収率の内訳をみると、船型では**200G/T未満の小型船(回収率65.6%)**、船種では**特タン船(回収率73.5%)**の回収率が低くなっております。例年通りの課題ではありますが、小型船、特タン船の乗組員数が比較的少ない点、他の船型、船種では満遍なく回収されている点を考慮すると概ね実態が反映される回収率と思われます。

今回の調査から推計される船員総数は、**9,120名(前年度8,946名)**で前年比**174名増**となりました。これは、対象隻数が増えたこと(**1,021→1,029隻**)、**新卒採用**が引き続き好調なこと(**320→343名**)、**予備員率(1.36→1.38名)**が向上したことなどが直接的な原因であります。若年船員を船内で育てていこうという良い傾向は継続されているものと思われます。

また、今回の調査による船員の**平均年齢は46.7才(前年度46.8才)**で、**0.1歳の若返り**となりました。これは、各社の新卒船員等の採用増による若年世代の増加(**25才未満割合11.0→11.4%**)と、**60歳以上の年齢構成(26.8%)**が多くなっている状況から、退職者の絶対数も増加していることが要因かと思われます。

また、このほかにも本報告書では、組合員各社からの貴重な実態を集計した上で、数多くの統計的データとしてまとめておりますので、是非、各社・グループの船員対策等にご活用下さい。

長年にわたり内航タンカー業界を支えて来た団塊世代の船員は、既に多数退職時期を迎えており、中堅世代を他業種から採用することが難しい現状においては、若手船員を採用し育成していかなければならないことは明白であります。このため、当委員会といたしましても、各種対策を実行することにより、組合員各社の船員問題への対応をサポートしていきたいと思っております。

最後になりますが、本調査にご協力をいただきました、運送事業者、船主の船員担当者の方々に、改めて厚くお礼を申し上げますとともに、今後ともご協力下さいますよう、よろしくお願い申し上げます。

全国内航タンカー海運組合  
船員対策委員会  
委員長 内藤 吉起

## 1. 回答状況

(1)対象隻数 : 1,029隻

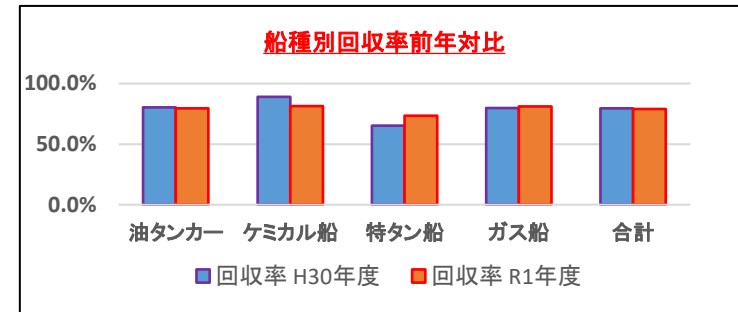
(2)回答隻数 : 814隻 (回収率:79.1%)

※調査票の回収方法は、内航総連合会の「構造改善対策賦課金」の徴収対象船舶リストにより、運送事業者に船主分の調査票の配布回収を依頼し実施。

※回収率79.1%の内訳は下表のとおり。(特タン船、小型船の事業者からの提出割合が低い)

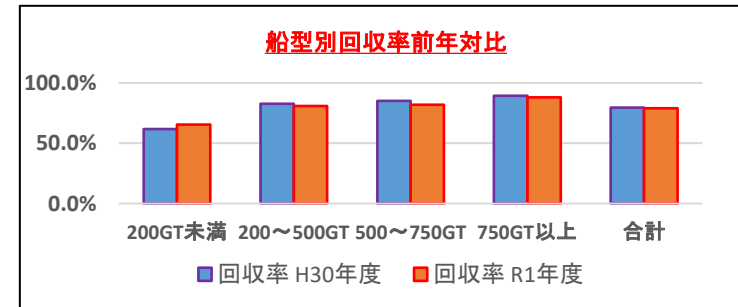
## (3)船種別回答内訳

	調査対象隻数		回答隻数		回収率	
	H30年度	R1年度	H30年度	R1年度	H30年度	R1年度
油タンカー	566	573	455	455	80.4%	79.4%
ケミカル船	181	188	161	153	89.0%	81.4%
特タン船	150	147	98	108	65.3%	73.5%
ガス船	124	121	99	98	79.8%	81.0%
合計	1,021	1,029	813	814	79.6%	79.1%



## (4)船型別回答内訳

	調査対象隻数		回答隻数		回収率	
	H30年度	R1年度	H30年度	R1年度	H30年度	R1年度
200GT未満	257	256	159	168	61.9%	65.6%
200～500GT	326	335	270	271	82.8%	80.9%
500～750GT	183	178	156	146	85.2%	82.0%
750GT以上	255	260	228	229	89.4%	88.1%
合計	1,021	1,029	813	814	79.6%	79.1%



## (5)回答船員数

( )は前年度船員数を示す。

合計(乗船中・下船中)7,517名(7,444名) ①乗船中の船員数5,449名(5,461名) ②下船中の船員数2,068名(1,983名)

## (6)内航タンカー船員の総計(推計)

上記船員数に各船種、船型別の回収率から算出した推計船員数と予備員率を乗じた内航タンカー全船での船員数は以下の通り推計される。

合計(乗船中・下船中)9,120名(8,946名) ①乗船中の船員数6,611名(6,563名) ②下船中の船員数2,509名(2,383名)

※ 前年度より推計船員数が174名多いのは、対象隻数の増加(+8隻)と予備員率増加(1.36→1.38)によるものと推計される。

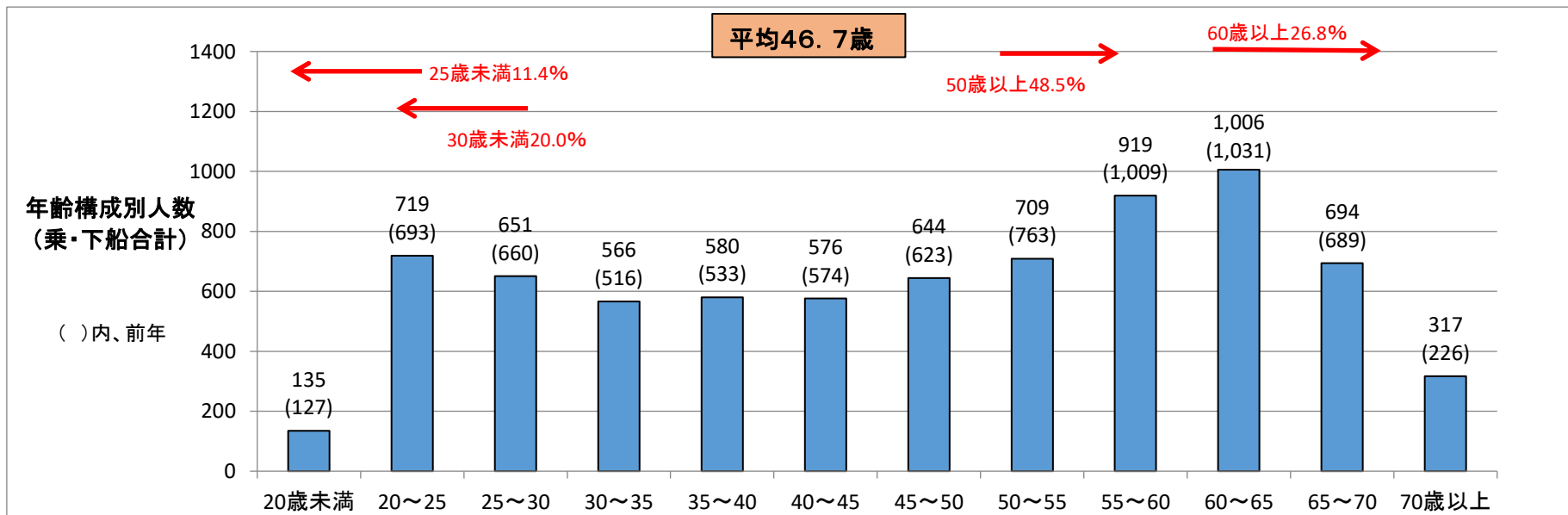
## ◎ 回答状況(詳細)

乗船中船員の集計	船種	船型区分 G/T	対象隻数	回答隻数	回収率	回答船員数	平均乗員数	推計船員数
			①	②	③ (②/①)	④	④/②	⑤ (④/③)
	油タンカー	200未満	200	126	63.0%	416	3.3	660
		～500未満	117	96	82.1%	503	5.2	613
		～750未満	57	51	89.5%	373	7.3	417
		～1000未満	43	38	88.4%	338	8.9	382
		～1600未満	7	5	71.4%	47	9.4	66
		～3000未満	29	26	89.7%	272	10.5	303
		3000以上	120	113	94.2%	1,301	11.5	1,382
		小計	573	455	79.4%	3,250	7.1	3,823
	ケミカル船	200未満	3	2	66.7%	7	3.5	11
		～500未満	145	122	84.1%	667	5.5	793
		～750未満	34	24	70.6%	157	6.5	222
		～1000未満	0	0	0.0%	0	0.0	0
		～1600未満	4	3	75.0%	37	12.3	49
		～3000未満	1	1	100.0%	8	8.0	8
		3000以上	1	1	100.0%	13	13.0	13
		小計	188	153	81.4%	889	5.8	1,096
	特ダシ船	200未満	53	40	75.5%	154	3.9	204
		～500未満	64	44	68.8%	211	4.8	307
		～750未満	26	20	76.9%	136	6.8	177
		～1000未満	3	3	100.0%	25	8.3	25
		～1600未満	1	1	100.0%	10	10.0	10
～3000未満		0	0	0.0%	0	0.0	0	
3000以上		0	0	0.0%	0	0.0	0	
	小計	147	108	73.5%	536	5.0	723	
ガス船	200未満	0	0	0.0%	0	0.0	0	
	～500未満	9	9	100.0%	46	5.1	46	
	～750未満	61	51	83.6%	347	6.8	415	
	～1000未満	32	24	75.0%	219	9.1	292	
	～1600未満	7	4	57.1%	39	9.8	68	
	～3000未満	8	6	75.0%	73	12.2	97	
	3000以上	4	4	100.0%	50	12.5	50	
	小計	121	98	81.0%	774	7.9	969	
合計	200未満	256	168	65.6%	577	3.4	875	
	～500未満	335	271	80.9%	1,427	5.3	1,759	
	～750未満	178	146	82.0%	1,013	6.9	1,231	
	～1000未満	78	65	83.3%	582	9.0	699	
	～1600未満	19	13	68.4%	133	10.2	193	
	～3000未満	38	33	86.8%	353	10.7	409	
	3000以上	125	118	94.4%	1,364	11.6	1,445	
	合計	1,029	814	79.1%	5,449	6.7	6,611	
下船中船員の集計						回答船員数 ⑥	予備員率 ⑦(⑥/④+1)	推計予備員数 ⑧(⑤×⑦-⑤)
						2,068	1.38	2,509
総合計 (⑤+⑧)				回答数計	7,517	推計船員数	9,120	

2. 年齢構成(乗・下船中の分類)

(1) 年齢区分別人数

		20歳未満	20～25	25～30	30～35	35～40	40～45	45～50	50～55	55～60	60～65	65～70	70歳以上	計
乗船中	人数	89	503	464	408	445	426	490	526	691	717	486	203	5,448
	年齢計	1,671	11,101	12,488	13,052	16,427	17,916	22,993	27,390	39,415	44,421	32,418	14,664	253,956
	平均年齢	18.8	22.1	26.9	32.0	36.9	42.1	46.9	52.1	57.0	62.0	66.7	72.2	46.6
	比率	1.6%	9.2%	8.5%	7.5%	8.2%	7.8%	9.0%	9.7%	12.7%	13.2%	8.9%	3.7%	100%
下船中	人数	46	216	187	158	135	150	154	183	228	289	208	114	2,068
	年齢計	849	4,755	5,030	5,020	4,995	6,314	7,247	9,556	13,026	17,923	13,899	8,241	96,855
	平均年齢	18.5	22.0	26.9	31.8	37.0	42.1	47.1	52.2	57.1	62.0	66.8	72.3	46.8
	比率	2.2%	10.4%	9.0%	7.6%	6.5%	7.3%	7.4%	8.8%	11.0%	14.0%	10.1%	5.5%	100%
合計	人数	135	719	651	566	580	576	644	709	919	1,006	694	317	7,516
	年齢計	2,520	15,856	17,518	18,072	21,422	24,230	30,240	36,946	52,441	62,344	46,317	22,905	350,811
	平均年齢	18.7	22.1	26.9	31.9	36.9	42.1	47.0	52.1	57.1	62.0	66.7	72.3	46.7
	比率	1.8%	9.6%	8.7%	7.5%	7.7%	7.7%	8.6%	9.4%	12.2%	13.4%	9.2%	4.2%	100%
女性船員(上記の内数)		0	20	11	4	1	1	4	3	0	0	0	1	45
		前年比3名増、平均年齢30.4歳、甲板職員23名(内.船長1名、一航4名)、甲板部員10名、機関職員10名(内.機関長1名)、司厨員2名												
派遣船員(上記の内数)		5	24	21	21	22	26	22	26	45	75	50	38	375
		前年比9名減、平均年齢59.9歳、甲板職員145名、甲板部員80名、機関職員103名、機関部員14名、司厨員33名												



① 全船種平均年齢(乗・下船合計)は**46.7歳**(前年度46.8歳)で、0.1歳若返った。

② 要因として、30歳未満の若年船員がここ数年各社の積極的な新卒採用により増加していることと、60歳以上船員の退職者が増加していることが考えられる。

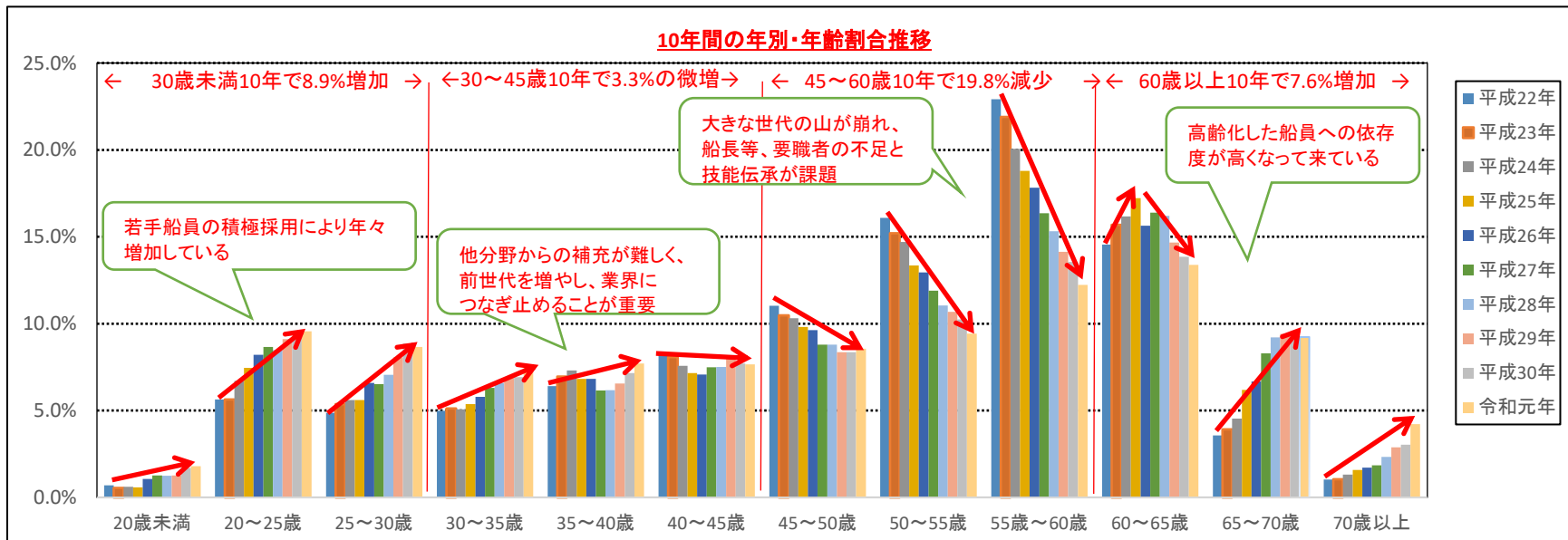
### 3. 年齢別船員数及び割合の推移(10年間)

#### (1) 年齢別船員数

	20歳未満	20～25歳	25～30歳	30～35歳	35～40歳	40～45歳	45～50歳	50～55歳	55歳～60歳	60～65歳	65～70歳	70歳以上	報告船員数
平成22年	48	390	336	344	442	566	762	1,111	1,582	1,005	247	71	6,904
平成23年	38	385	367	349	475	551	715	1,037	1,494	1,070	268	72	6,821
平成24年	42	453	379	342	493	512	696	992	1,354	1,092	306	89	6,750
平成25年	39	495	372	356	453	475	651	885	1,246	1,142	410	105	6,629
平成26年	75	575	462	405	478	495	674	906	1,247	1,095	467	120	6,999
平成27年	85	578	436	421	411	500	587	795	1,092	1,095	554	124	6,678
平成28年	95	643	535	500	468	570	667	837	1,161	1,229	699	177	7,581
平成29年	96	686	606	517	493	600	629	803	1,063	1,103	708	217	7,521
平成30年	127	693	660	516	533	574	623	763	1,009	1,031	689	226	7,444
令和元年	135	719	651	566	580	576	644	709	919	1,006	694	317	7,516
合計	780	5,617	4,804	4,316	4,826	5,419	6,648	8,838	12,167	10,868	5,042	1,518	70,843

#### (2) 年齢別船員割合

	20歳未満	20～25歳	25～30歳	30～35歳	35～40歳	40～45歳	45～50歳	50～55歳	55歳～60歳	60～65歳	65～70歳	70歳以上	合計
平成22年	0.7%	5.6%	4.9%	5.0%	6.4%	8.2%	11.0%	16.1%	22.9%	14.6%	3.6%	1.0%	100.0%
平成23年	0.6%	5.6%	5.4%	5.1%	7.0%	8.1%	10.5%	15.2%	21.9%	15.7%	3.9%	1.1%	100.0%
平成24年	0.6%	6.7%	5.6%	5.1%	7.3%	7.6%	10.3%	14.7%	20.1%	16.2%	4.5%	1.3%	100.0%
平成25年	0.6%	7.5%	5.6%	5.4%	6.8%	7.2%	9.8%	13.4%	18.8%	17.2%	6.2%	1.6%	100.0%
平成26年	1.1%	8.2%	6.6%	5.8%	6.8%	7.1%	9.6%	12.9%	17.8%	15.6%	6.7%	1.7%	100.0%
平成27年	1.3%	8.7%	6.5%	6.3%	6.2%	7.5%	8.8%	11.9%	16.4%	16.4%	8.3%	1.9%	100.0%
平成28年	1.3%	8.5%	7.1%	6.6%	6.2%	7.5%	8.8%	11.0%	15.3%	16.2%	9.2%	2.3%	100.0%
平成29年	1.3%	9.1%	8.1%	6.9%	6.6%	8.0%	8.4%	10.7%	14.1%	14.7%	9.4%	2.9%	100.0%
平成30年	1.7%	9.3%	8.9%	6.9%	7.2%	7.7%	8.4%	10.2%	13.6%	13.9%	9.3%	3.0%	100.0%
令和元年	1.8%	9.6%	8.7%	7.5%	7.7%	7.7%	8.6%	9.4%	12.2%	13.4%	9.2%	4.2%	100.0%



## 4. 総トン数・船種別平均年齢(乗船中船員)

## (1) 総トン数別平均年齢

	元年度				27年度 平均年齢	28年度 平均年齢	29年度 平均年齢	30年度 平均年齢	元年度 平均年齢
	隻数	船員数	平均乗員	年齢計					
200未満	168	577	3.4	28,884	52.9	52.3	51.8	50.5	50.1
500未満	271	1,427	5.3	70,821	51.4	51.3	51.1	50.0	49.6
750未満	146	1,013	6.9	49,395	50.2	50.6	49.5	49.1	48.8
1000未満	65	582	9.0	26,689	47.8	47.7	47.6	47.3	45.9
1600未満	13	133	10.2	5,540	44.9	44.2	44.1	44.1	41.7
3000未満	33	353	10.7	15,004	43.8	44.1	43.6	42.0	42.5
3000以上	118	1,364	11.6	57,623	42.7	42.8	42.5	41.9	42.2
合計	814	5,449	6.7	253,956	47.9	48.0	48.1	47.6	46.6

・本年度乗船中の平均年齢は1歳若返り46.6歳であったが、船型別にみると、200GT未満船の50.1歳に対して、3,000GT以上船は42.2歳であり、小型船／大型船では平均年齢に約8歳の開きがある。

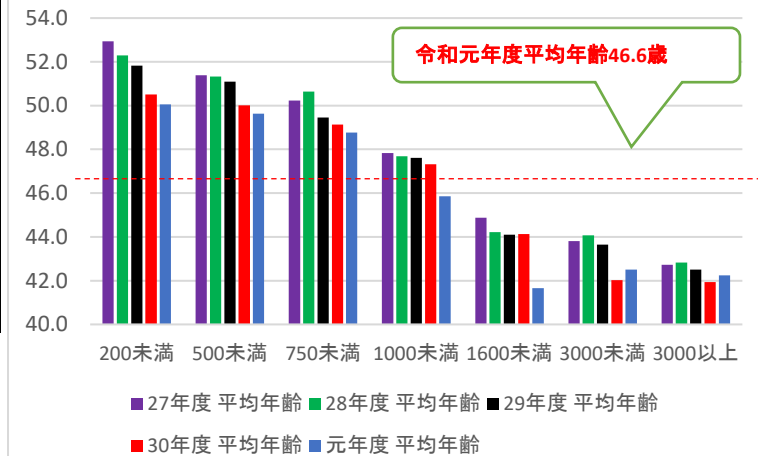
## (2) 船種別平均年齢(乗船中)

	元年度				27年度 平均年齢	28年度 平均年齢	29年度 平均年齢	30年度 平均年齢	元年度 平均年齢
	隻数	船員数	平均乗員	年齢計					
油タンカー	455	3,250	7.1	148,157	46.7	47.1	46.4	45.8	45.6
ケミカル船	153	889	5.8	42,961	51.0	50.6	50.3	49.5	48.3
特タン船	108	536	5.0	26,930	51.9	50.6	51.2	50.2	50.2
ガス船	98	774	7.9	35,908	48.0	48.5	48.1	47.0	46.4
合計	814	5,449	6.7	253,956	48.6	48.0	48.1	47.6	46.6

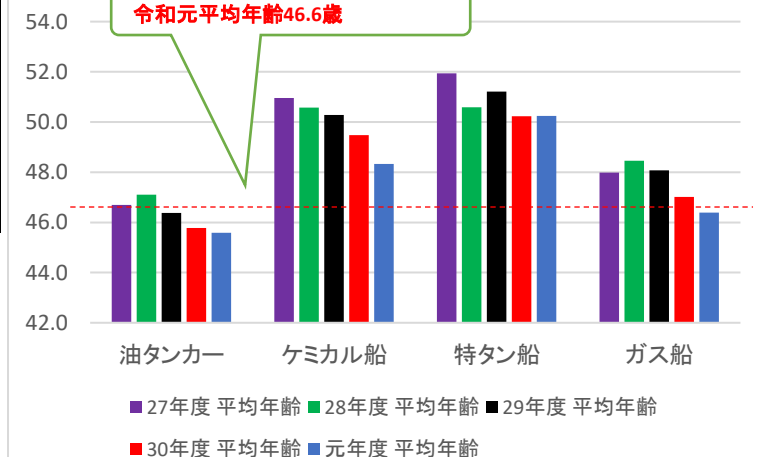
・令和元年度で平均年齢を下回るのは油タンカー(45.6歳)とガス船(46.4歳)。

・特タン船は平均より高齢化(約50.2歳)しているが、ケミカル船(48.3歳)毎年少しずつ若返っている。

総トン数別平均年齢(5年間統計)(乗船中船員)



船種別平均年齢(5年間統計)(乗船中船員)





(年齢構成:船種別詳細①)

		20歳未満	20～25	25～30	30～35	35～40	40～45	45～50	50～55	55～60	60～65	65～70	70以上	計
白	200未満	1	6	14	10	10	10	20	10	15	14	13	10	133
	～500未満	2	7	9	9	8	12	9	21	19	29	25	8	158
	～750未満	4	12	24	24	25	28	20	43	40	41	27	14	302
	～1000未満	4	7	17	10	13	11	14	15	23	20	20	1	155
	～1600未満	1	6	3	5	3	8	5	5	4	5	1	1	47
	～3000未満	7	34	34	14	19	14	13	28	31	25	22	2	243
	3000以上	28	167	93	67	70	77	71	81	117	98	55	16	940
	人数	47	239	194	139	148	160	152	203	249	232	163	52	1,978
	年齢計	887	5,275	5,190	4,420	5,459	6,729	7,135	10,567	14,196	14,336	10,871	3,719	88,784
平均	18.9	22.1	26.8	31.8	36.9	42.1	46.9	52.1	57.0	61.8	66.7	71.5	44.9	
黒	200未満	0	7	16	28	33	33	30	36	23	34	23	20	283
	～500未満	0	20	28	27	36	24	43	29	43	45	29	20	344
	～750未満	2	4	5	1	12	6	5	6	6	17	7	0	71
	～1000未満	3	13	16	17	16	13	16	15	24	18	23	9	183
	～1600未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	～3000未満	0	5	0	0	1	3	4	4	4	8	0	0	29
	3000以上	8	40	45	36	29	30	33	32	40	49	12	7	361
	人数	13	89	110	109	127	109	131	122	140	171	94	56	1,271
	年齢計	241	1,964	2,977	3,489	4,691	4,603	6,135	6,353	7,978	10,610	6,262	4,070	59,373
平均	18.5	22.1	27.1	32.0	36.9	42.2	46.8	52.1	57.0	62.0	66.6	72.7	46.7	
ケミカル	200未満	0	0	1	0	0	0	1	1	1	1	2	0	7
	～500未満	4	34	50	53	60	57	52	62	86	93	75	41	667
	～750未満	0	11	13	11	14	13	17	18	25	16	17	2	157
	～1000未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	～1600未満	2	10	3	0	3	3	2	3	4	6	1	0	37
	～3000未満	0	1	1	0	2	1	0	0	2	1	0	0	8
	3000以上	1	0	3	3	2	0	2	1	0	1	0	0	13
	人数	7	56	71	67	81	74	74	85	118	118	95	43	889
	年齢計	129	1,255	1,913	2,165	2,999	3,101	3,479	4,429	6,747	7,311	6,347	3,086	42,961
平均	18.4	22.4	26.9	32.3	37.0	41.9	47.0	52.1	57.2	62.0	66.8	71.8	48.3	

(年齢構成:船種別詳細②)

		20歳未満	20～25	25～30	30～35	35～40	40～45	45～50	50～55	55～60	60～65	65～70	70以上	計
特タン	200未満	2	6	2	8	10	9	22	12	19	20	26	18	154
	～500未満	1	10	11	14	14	12	25	26	24	35	30	9	211
	～750未満	1	7	13	12	14	10	10	15	25	12	15	2	136
	～1000未満	0	7	3	0	1	3	3	3	3	1	1	0	25
	～1600未満	1	2	0	0	1	0	0	0	1	2	2	1	10
	～3000未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3000以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	人数	5	32	29	34	40	34	60	56	72	70	74	30	536
	年齢計	95	704	787	1,093	1,475	1,425	2,822	2,919	4,115	4,354	4,938	2,203	26,930
	平均	19.0	22.0	27.1	32.1	36.9	41.9	47.0	52.1	57.2	62.2	66.7	73.4	50.2
ガス	200未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	～500未満	0	0	1	1	2	3	8	2	8	12	5	4	46
	～750未満	5	20	23	19	14	25	34	28	59	66	38	16	347
	～1000未満	5	29	18	23	21	10	18	19	23	36	15	2	219
	～1600未満	1	11	1	3	4	3	4	0	7	3	2	0	39
	～3000未満	3	19	8	7	5	5	5	7	8	6	0	0	73
	3000以上	3	8	9	6	3	3	4	4	7	3	0	0	50
	人数	17	87	60	59	49	49	73	60	112	126	60	22	774
	年齢計	319	1,903	1,621	1,885	1,803	2,058	3,422	3,122	6,379	7,810	4,000	1,586	35,908
	平均	18.8	21.9	27.0	31.9	36.8	42.0	46.9	52.0	57.0	62.0	66.7	72.1	46.4
合計	200未満	3	19	33	46	53	52	73	59	58	69	64	48	577
	～500未満	7	71	99	104	120	108	137	140	180	214	164	82	1,426
	～750未満	12	54	78	67	79	82	86	110	155	152	104	34	1,013
	～1000未満	12	56	54	50	51	37	51	52	73	75	59	12	582
	～1600未満	5	29	7	8	11	14	11	8	16	16	6	2	133
	～3000未満	10	59	43	21	27	23	22	39	45	40	22	2	353
	3000以上	40	215	150	112	104	110	110	118	164	151	67	23	1,364
	人数	89	503	464	408	445	426	490	526	691	717	486	203	5,448
	年齢計	1,671	11,101	12,488	13,052	16,427	17,916	22,993	27,390	39,415	44,421	32,418	14,664	253,956
	平均	18.8	22.1	26.9	32.0	36.9	42.1	46.9	52.1	57.0	62.0	66.7	72.2	46.6

5. 職種別平均年齢(乗・下船船員の合計)

(1) 職種別

職種	船員数	年齢計	平均年齢
船長	1,137	63,658	56.0
一航士	978	45,904	46.9
次席一航士	191	8,510	44.6
二航士	787	35,631	45.3
三航士	258	9,057	35.1
小計	3,351	162,760	48.6
甲板長	258	13,363	51.8
甲板手	501	18,524	37.0
甲板員	485	17,539	36.2
見習い	20	469	23.5
司厨員	476	24,877	52.3
小計	1,740	74,772	43.0
機関長	1,060	57,348	54.1
一機士	730	34,313	47.0
次席一機士	56	2,360	42.1
二機士	215	7,835	36.4
三機士	26	694	26.7
小計	2,087	102,550	49.1
操機長	35	1,478	42.2
操機手	48	1,115	23.2
機関員	235	7,488	31.9
見習い	21	648	30.9
小計	314	9,683	30.8
合計	7,492	349,765	46.7

(職種別平均年齢の前年対比)

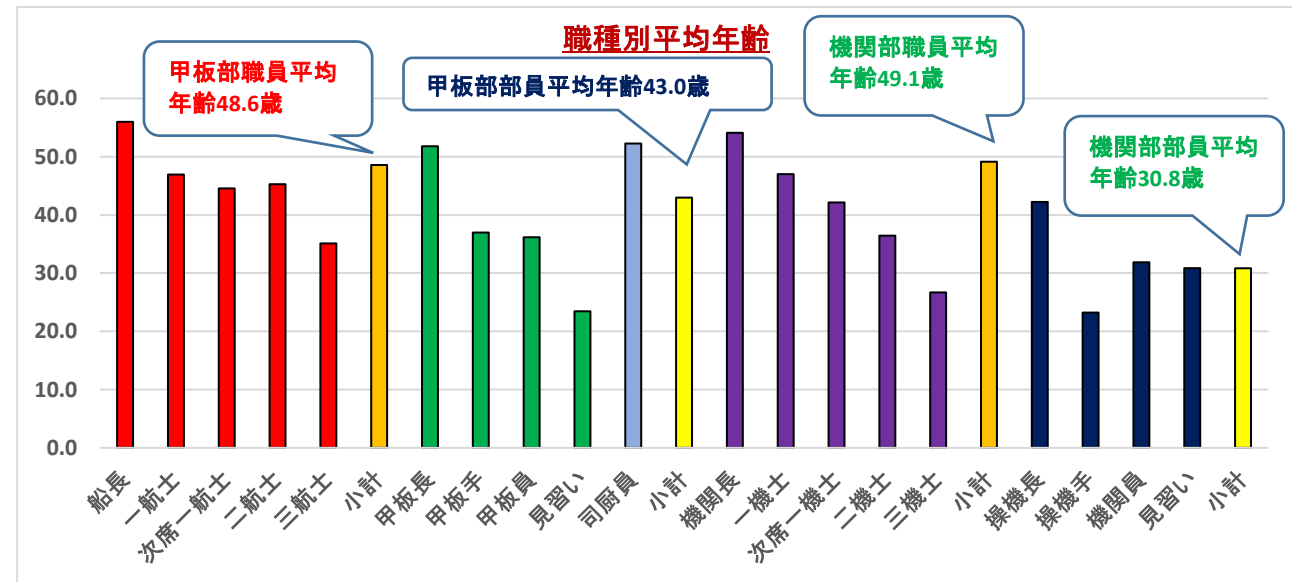
職種	R元年度	H30年度	対比
甲板部職員	48.6	48.3	0.3
部員	43.0	43.4	-0.4
機関部職員	49.1	49.7	-0.5
部員	30.8	30.8	0.0

(2) 航海/機関別

(註)本表中、司厨員は甲板部員に参入

R元年度		船員数	年齢計	平均年齢
甲板部	職員	3,351	162,760	48.6
	部員	1,740	74,772	43.0
	小計	5,091	237,532	46.7
機関部	職員	2,087	102,550	49.1
	部員	314	9,683	30.8
	小計	2,401	112,233	46.7
合計		7,492	349,765	46.7

H30年度(参考)		船員数	年齢計	平均年齢
甲板部	職員	3,331	160,910	48.3
	部員	1,714	74,408	43.4
	小計	5,045	235,318	46.6
機関部	職員	2,085	103,560	49.7
	部員	314	9,683	30.8
	小計	2,399	113,243	47.2
合計		7,444	348,561	46.8



・令和元年度の職種毎の平均年齢は上表のとおりである。

・前年度平均年齢と比較すると、甲板部職員は+0.3歳、甲板部部員は△0.4歳、機関部職員は△0.5歳、機関部部員は±0歳。

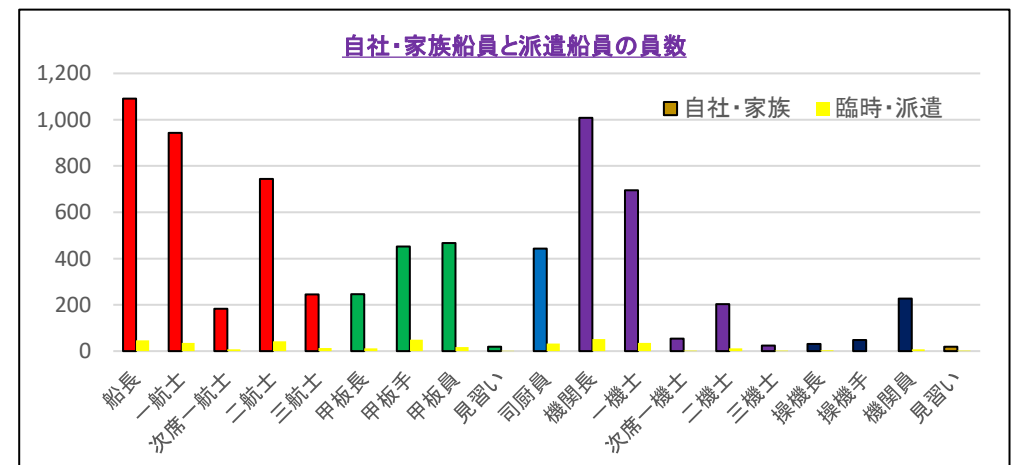
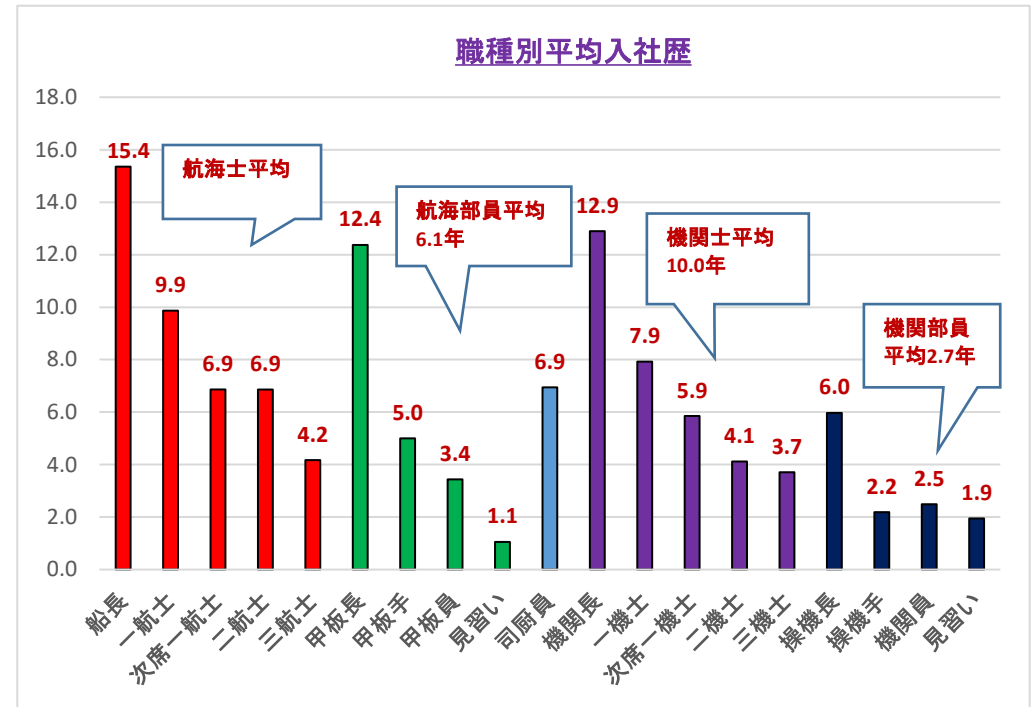
## 6. 入社歴及び前職

## (1) 職種別船員数及び入社歴と雇用内訳(乗・下船合計)

	船員数	内訳(*1)		入社歴計	平均入社歴(*2)
		自社・家族	臨時・派遣		
船長	1,137	1,091	46	16,752	15.4
一航士	978	943	35	9,304	9.9
次席一航士	191	183	8	1,256	6.9
二航士	787	744	43	5,104	6.9
三航士	258	245	13	1,022	4.2
<b>小計</b>	<b>3,351</b>	<b>3,206</b>	<b>145</b>	<b>33,438</b>	<b>10.4</b>
甲板長	258	246	12	3,043	12.4
甲板手	501	452	49	2,260	5.0
甲板員	485	467	18	1,605	3.4
見習い	20	19	1	20	1.1
司厨員	476	443	33	3,078	6.9
<b>小計</b>	<b>1,740</b>	<b>1,627</b>	<b>113</b>	<b>10,006</b>	<b>6.1</b>
機関長	1,060	1,008	52	12,999	12.9
一機士	730	695	35	5,507	7.9
次席一機士	56	54	2	316	5.9
二機士	215	203	12	836	4.1
三機士	26	24	2	89	3.7
<b>小計</b>	<b>2,087</b>	<b>1,984</b>	<b>103</b>	<b>19,747</b>	<b>10.0</b>
操機長	35	31	4	185	6.0
操機手	48	48	0	105	2.2
機関員	235	227	8	565	2.5
見習い	21	19	2	37	1.9
<b>小計</b>	<b>339</b>	<b>325</b>	<b>14</b>	<b>892</b>	<b>2.7</b>
<b>合計</b>	<b>7,517</b>	<b>7,142</b>	<b>375</b>	<b>64,083</b>	<b>9.0</b>

(\*1): 平均入社歴は自社・家族船員のみを対象とした。

・自社・家族船員と臨時・派遣船員の比率は、**自社・家族95.0%**(前年度94.8%)、**臨時・派遣5.0%**(前年度5.2%)で、大きな変動はなかった。



## (2)職種別船員の前職(全船種合計)

職種	専門新卒	一般新卒	タンカー船	ケミカル船	ガス船	特タン	貨物船	外航船員	漁船	その他	未記入	計
船長	88	31	433	194	55	45	64	13	89	82	43	1,137
一航士	116	22	324	158	46	30	53	2	81	112	34	978
次席一航士	24	4	66	26	8	5	13	0	14	27	4	191
二航士	135	10	245	86	31	20	75	6	56	98	25	787
三航士	88	15	57	7	0	2	21	2	13	45	8	258
<b>小計</b>	<b>451</b>	<b>82</b>	<b>1,125</b>	<b>471</b>	<b>140</b>	<b>102</b>	<b>226</b>	<b>23</b>	<b>253</b>	<b>364</b>	<b>114</b>	<b>3,351</b>
<b>割合</b>	<b>13.5%</b>	<b>2.4%</b>	<b>33.6%</b>	<b>14.1%</b>	<b>4.2%</b>	<b>3.0%</b>	<b>6.7%</b>	<b>0.7%</b>	<b>7.5%</b>	<b>10.9%</b>	<b>3.4%</b>	<b>100%</b>
甲板長	29	10	81	27	8	3	11	2	33	52	2	258
甲板手	165	16	124	8	7	1	26	0	21	106	27	501
甲板員	106	31	77	13	6	0	14	2	38	184	14	485
見習い	11	1	1	0	0	0	1	0	0	5	1	20
司厨員	15	2	135	14	19	1	31	6	17	220	16	476
<b>小計</b>	<b>326</b>	<b>60</b>	<b>418</b>	<b>62</b>	<b>40</b>	<b>5</b>	<b>83</b>	<b>10</b>	<b>109</b>	<b>567</b>	<b>60</b>	<b>1,740</b>
<b>割合</b>	<b>18.7%</b>	<b>3.4%</b>	<b>24.0%</b>	<b>3.6%</b>	<b>2.3%</b>	<b>0.3%</b>	<b>4.8%</b>	<b>0.6%</b>	<b>6.3%</b>	<b>32.6%</b>	<b>3.4%</b>	<b>100.0%</b>
機関長	59	20	409	152	48	40	68	22	109	97	36	1,060
一機士	100	16	242	87	38	14	48	5	61	96	23	730
次席一機士	6	0	18	7	4	0	4	0	3	12	2	56
二機士	69	4	47	9	3	0	19	3	10	42	9	215
三機士	15	1	2	0	0	1	1	0	0	4	2	26
<b>小計</b>	<b>249</b>	<b>41</b>	<b>718</b>	<b>255</b>	<b>93</b>	<b>55</b>	<b>140</b>	<b>30</b>	<b>183</b>	<b>251</b>	<b>72</b>	<b>2,087</b>
<b>割合</b>	<b>11.9%</b>	<b>2.0%</b>	<b>34.4%</b>	<b>12.2%</b>	<b>4.5%</b>	<b>2.6%</b>	<b>6.7%</b>	<b>1.4%</b>	<b>8.8%</b>	<b>12.0%</b>	<b>28.7%</b>	<b>100%</b>
操機長	5	2	5	4	0	0	3	0	4	12	0	35
操機手	34	1	3	0	0	0	1	0	0	5	4	48
機関員	66	15	31	16	2	1	3	0	12	84	5	235
見習い	5	1	2	0	0	0	0	0	0	12	1	21
<b>小計</b>	<b>110</b>	<b>19</b>	<b>41</b>	<b>20</b>	<b>2</b>	<b>1</b>	<b>7</b>	<b>0</b>	<b>16</b>	<b>113</b>	<b>10</b>	<b>339</b>
<b>総計</b>	<b>1,136</b>	<b>202</b>	<b>2,302</b>	<b>808</b>	<b>275</b>	<b>163</b>	<b>456</b>	<b>63</b>	<b>561</b>	<b>1,295</b>	<b>256</b>	<b>7,517</b>
<b>割合</b>	<b>15.1%</b>	<b>2.7%</b>	<b>30.6%</b>	<b>10.7%</b>	<b>3.7%</b>	<b>2.2%</b>	<b>6.1%</b>	<b>0.8%</b>	<b>7.5%</b>	<b>17.2%</b>	<b>3.4%</b>	<b>100%</b>

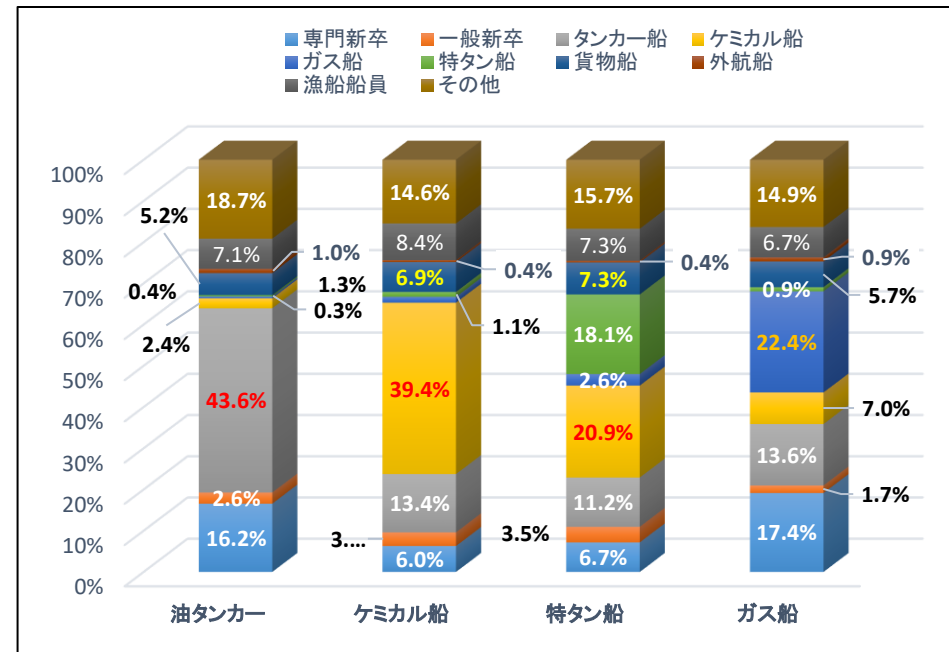
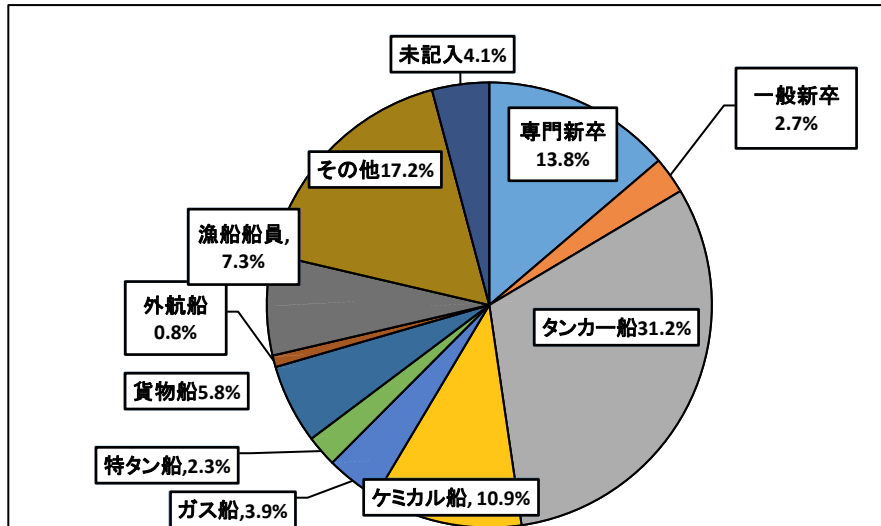
※前職は入社直前の職種を記載している。

※ 前職の上位は、タンカー経験者30.6%、その他17.2%、専門学校新卒者が15.1%、ケミカル船が10.7%、漁船が7.5%、貨物船が6.1%となっている。

(3) 船種別船員の前職(乗船中)

	専門新卒	一般新卒	タンカー船	ケミカル船	ガス船	特タン船	貨物船	外航船	漁船船員	その他	未記入	計
油タンカー	526	86	1,418	77	14	10	170	33	232	608	76	3,250
ケミカル船	53	28	119	350	12	10	61	4	75	130	47	889
特タン船	36	19	60	112	14	97	39	2	39	84	34	536
ガス船	135	13	105	54	173	7	44	7	52	115	69	774
合計	750	146	1,702	593	213	124	314	46	398	937	226	5,449
比率	13.8%	2.7%	31.2%	10.9%	3.9%	2.3%	5.8%	0.8%	7.3%	17.2%	4.1%	100%

	専門新卒	一般新卒	タンカー船	ケミカル船	ガス船	特タン船	貨物船	外航船	漁船船員	その他
油タンカー	16.2%	2.6%	43.6%	2.4%	0.4%	0.3%	5.2%	1.0%	7.1%	18.7%
ケミカル船	6.0%	3.1%	13.4%	39.4%	1.3%	1.1%	6.9%	0.4%	8.4%	14.6%
特タン船	6.7%	3.5%	11.2%	20.9%	2.6%	18.1%	7.3%	0.4%	7.3%	15.7%
ガス船	17.4%	1.7%	13.6%	7.0%	22.4%	0.9%	5.7%	0.9%	6.7%	14.9%



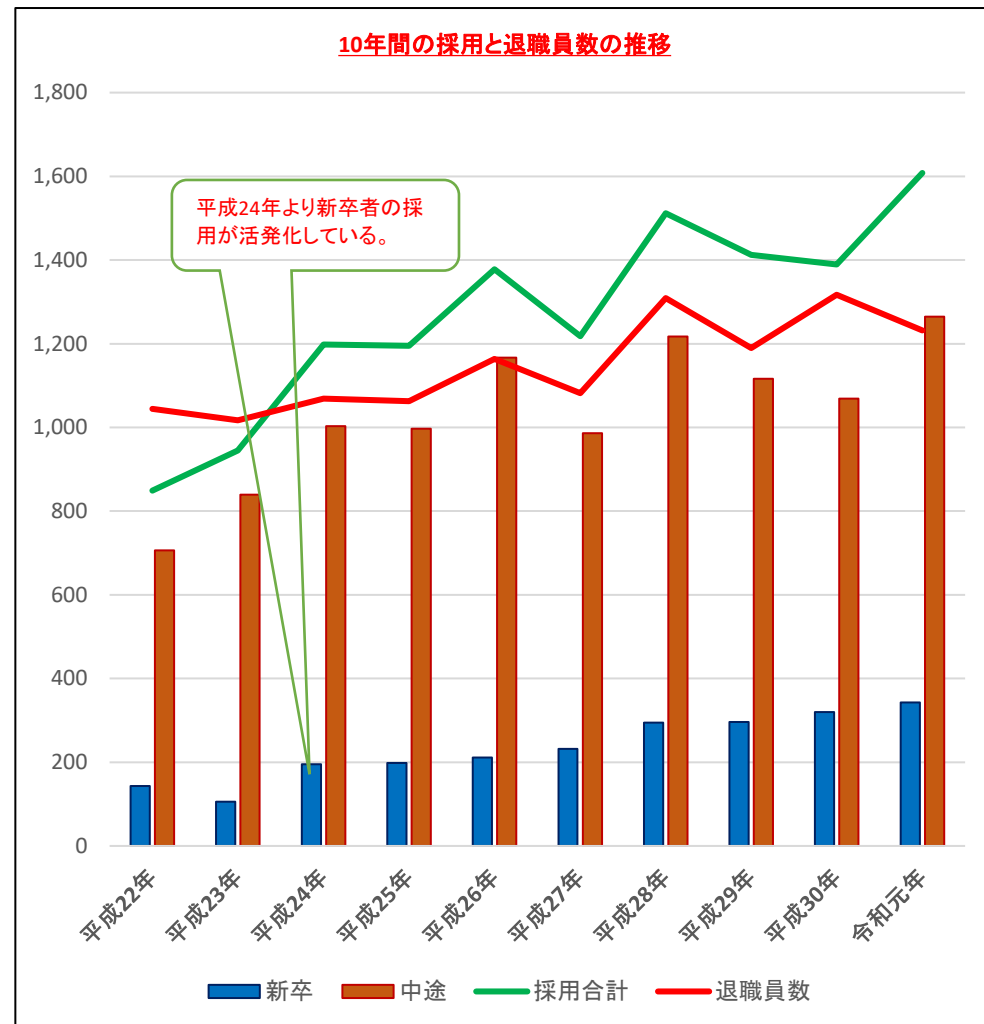
※油タンカー、ケミカル船は、同じ船種に戻る割合が高く、ガス船もやや低いと同じ傾向。

※特タン船は、ケミカル船からの転職者が、特タン船からの転職者を上回っている。

## 7. 採用・退職関係

## (1) 過去10年間の採用及び退職船員統計表

	新卒	中途	採用合計	退職員数	採用員数 - 退職員数
平成22年	143	706	849	1,044	-195
平成23年	106	839	945	1,017	-72
平成24年	195	1003	1,198	1,069	129
平成25年	198	997	1,195	1,063	132
平成26年	211	1167	1,378	1,164	214
平成27年	232	986	1,218	1,082	136
平成28年	295	1,217	1,512	1,309	203
平成29年	296	1,116	1,412	1,190	222
平成30年	320	1,069	1,389	1,317	72
令和元年	343	1,265	1,608	1,232	376
合計	2,339	10,365	12,704	11,487	1,217



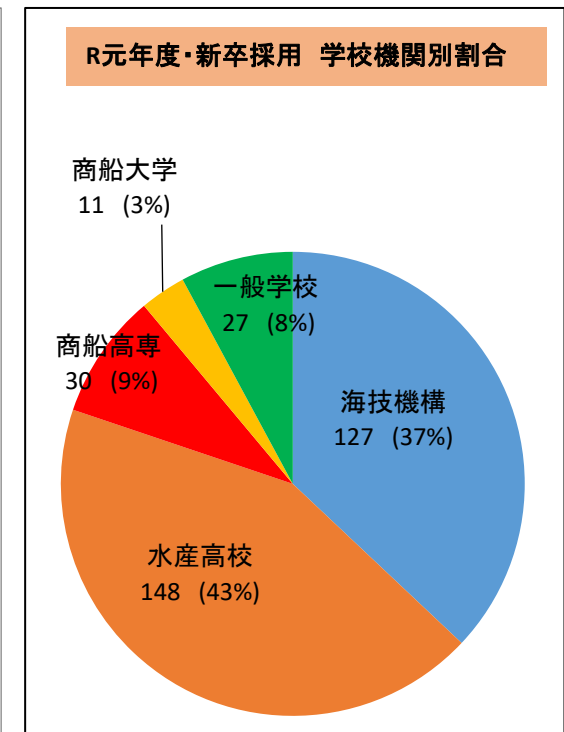
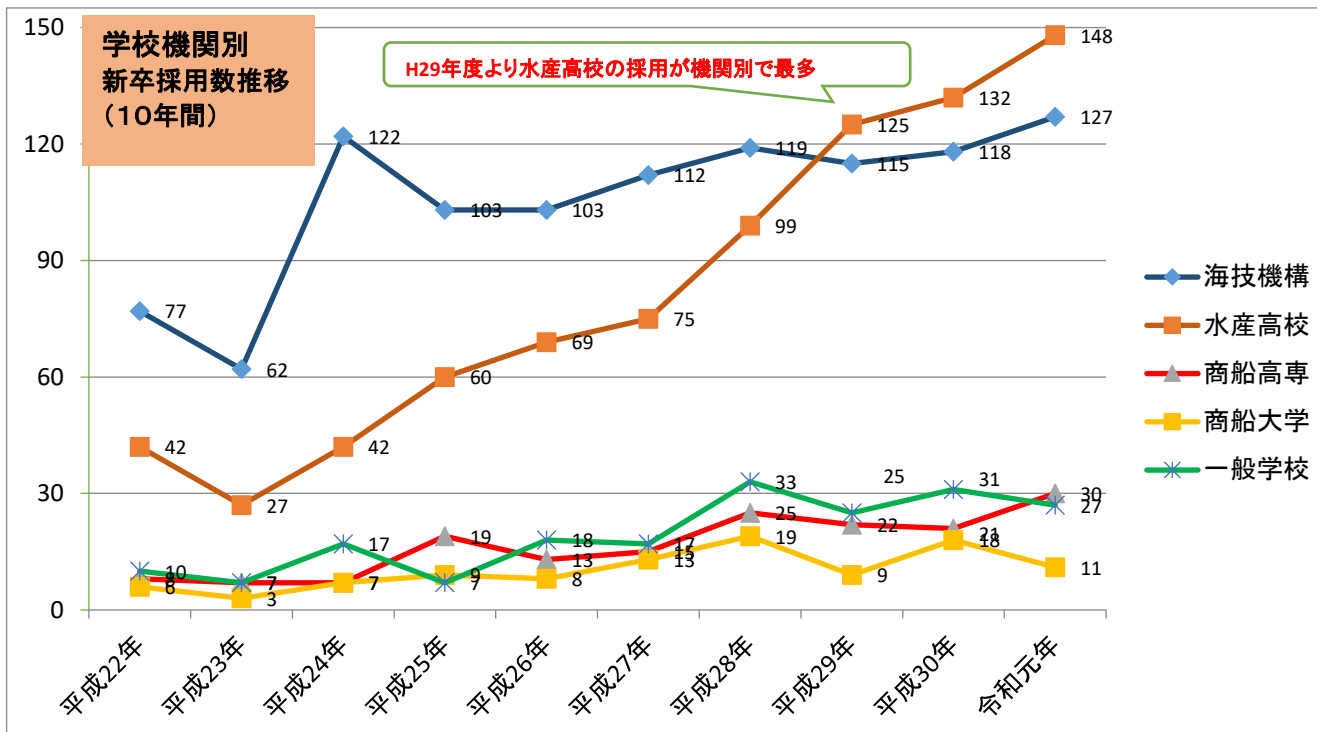
※採用人数12,704名の内、中途採用者は10,365名と全体の81.6%を占めている。

(2)新卒者採用学校別割合及び中途採用者内訳(10年間)

	新卒						中途			合計
	海技機構	水産高校	商船高专	商船大学	一般学校	小計	元船員	船員以外	小計	
平成22年	77	42	8	6	10	143	649	63	712	855
平成23年	62	27	7	3	7	106	765	74	839	945
平成24年	122	42	7	7	17	195	904	99	1,003	1,198
平成25年	103	60	19	9	7	198	897	100	997	1,195
平成26年	103	69	13	8	18	211	1,008	159	1,167	1,378
平成27年	112	75	15	13	17	232	830	156	986	1,218
平成28年	119	99	25	19	33	295	985	232	1,217	1,512
平成29年	115	125	22	9	25	296	884	232	1,116	1,412
平成30年	118	132	21	18	31	320	872	197	1,069	1,389
令和元年	127	148	30	11	27	343	1,024	241	1,265	1,608
合計	1,058	819	167	103	192	2,339	8,818	1,553	10,371	12,710
	45.2%	35.0%	7.1%	4.4%	8.2%	100.0%	85.0%	15.0%	100.0%	

(※1)教育機関別の新卒採用数は、10年間合計では、海技学校・短大が47.1%とほぼ半数だが、平成29年度より水産高校生の採用数が最多となった。

(※2)水産高校採用数148名の内訳  
専攻科44名、本科104名 (R元年)





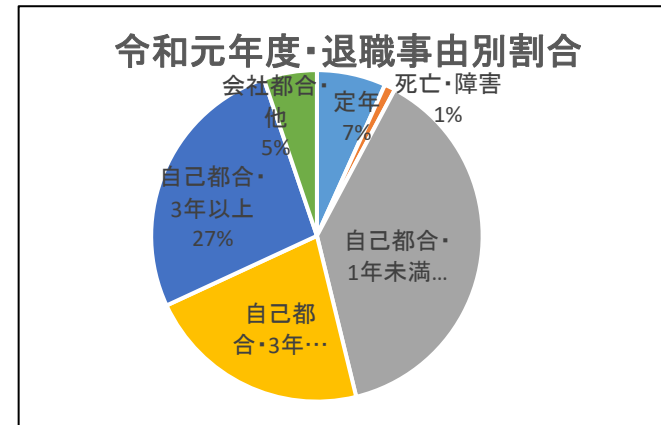
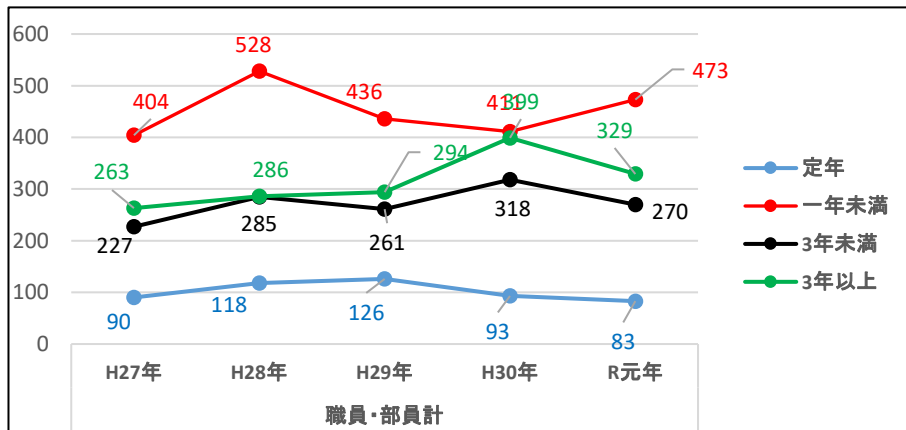
(3) 令和元年度退職状況

	職 員				部 員				職・部員合計					
	甲板	機関	その他	計	甲板	機関	その他	計	甲板	機関	その他	計	比率	
定年	37	26	1	64	10	2	7	19	47	28	8	83	6.7%	
死亡・障害	6	1	0	7	3	3	0	6	9	4	0	13	1.1%	
自己都合	一年未満	122	92	4	218	141	50	64	255	263	142	68	473	38.4%
	3年未満	77	62	2	141	83	27	19	129	160	89	21	270	21.9%
	3年以上	160	90	4	254	40	13	22	75	200	103	26	329	26.7%
会社都合・他	一年未満	6	4	2	12	8	7	4	19	14	11	6	31	2.5%
	3年未満	3	0	0	3	0	2	1	3	3	2	1	6	0.5%
	3年以上	9	13	0	22	4	0	1	5	13	13	1	27	2.2%
計		420	288	13	721	289	104	118	511	709	392	131	1,232	100.0%

(4) 平成27～令和元年在籍期間対比(5年間)

(会社都合は除く)

	職員・部員計					計	%
	H27年	H28年	H29年	H30年	R元年		
定年	90	118	126	93	83	510	9.0%
一年未満	404	528	436	411	473	2,252	39.6%
3年未満	227	285	261	318	270	1,361	23.9%
3年以上	263	286	294	399	329	1,571	27.6%
計	984	1,217	1,117	1,221	1,155	5,694	100.0%



令和元年度・退職者比率(自己都合)

- ※一年未満38%
- ※一年以上3年未満22%
- ※3年以上27%

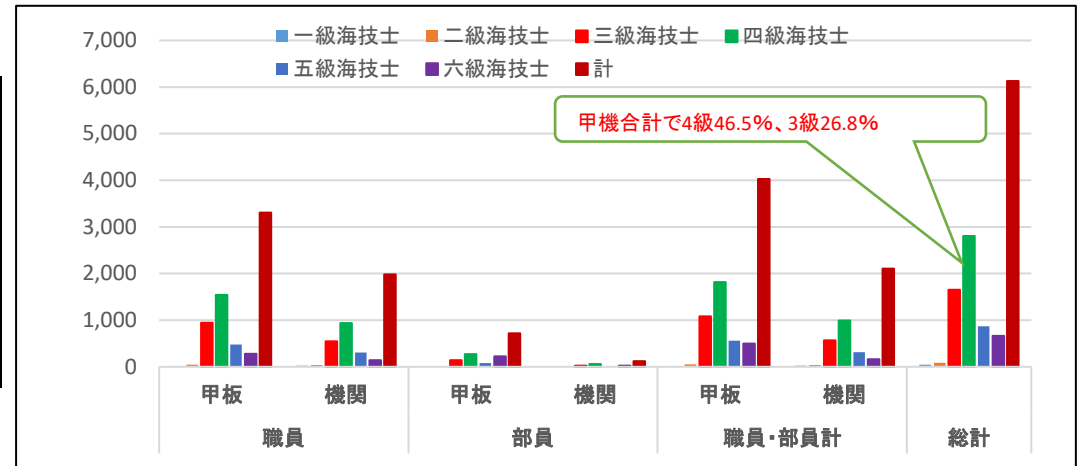
(5年間統計)

※0～3年未満での自己都合退職者割合は、5年間高止まり傾向(64→67→62→60→64%)

### 8. 海技免状保有状況

#### ①甲・機別保有者数

	職員		部員		職員・部員計		総計	比率
	甲板	機関	甲板	機関	甲板	機関		
一級海技士	18	23	0	2	18	25	43	0.7%
二級海技士	48	38	2	0	50	38	88	1.4%
三級海技士	944	543	140	25	1,084	568	1,652	27.0%
四級海技士	1,544	935	272	58	1,816	993	2,809	45.8%
五級海技士	478	306	79	8	557	314	871	14.2%
六級海技士	276	138	224	27	500	165	665	10.9%
計	3,308	1,983	717	120	4,025	2,103	6,128	100.0%



#### ②年齢別保有数

##### イ)航海士

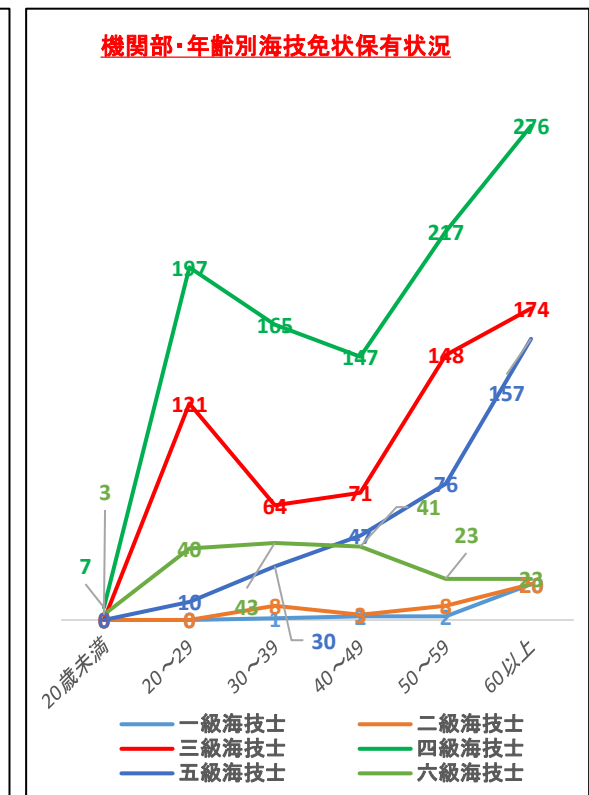
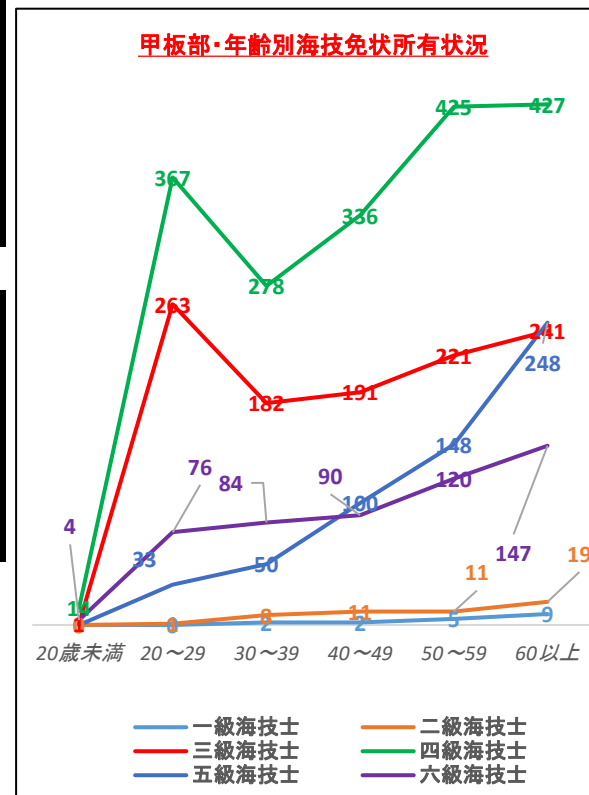
	20歳未満	20~29	30~39	40~49	50~59	60以上	計
一級海技士	0	0	2	2	5	9	18
二級海技士	0	1	8	11	11	19	50
三級海技士	1	263	182	191	221	241	1,099
四級海技士	14	367	278	336	425	427	1,847
五級海技士	0	33	50	100	148	248	579
六級海技士	4	76	84	90	120	147	521
計	19	740	604	730	930	1,091	4,114

##### ロ)機関士

	20歳未満	20~29	30~39	40~49	50~59	60以上	計
一級海技士	0	0	1	2	2	20	25
二級海技士	0	0	8	3	8	20	39
三級海技士	0	121	64	71	148	174	578
四級海技士	7	197	165	147	217	276	1,009
五級海技士	0	10	30	47	76	157	320
六級海技士	3	40	43	41	23	23	173
計	10	368	311	311	474	670	2,144

※甲板部・機関部とも4級、3級海技士が主流

※6級海技士の部員の所有状況は甲板521名に対し機関173名と少ない。



### 9. 船舶料理士免許保有状況

	所有	未所有	司厨員計	所有割合
乗船中	200	70	270	74.1%
下船中	110	35	145	75.9%
計	310	105	415	74.7%

※未回答、又は甲板・機関免状を記載した回答は集計除外(61名)

## 10. 船員不足の考察

## ① 船型別隻数/乗船中船員数(有効回答数)

年度	200GT未満			500GT未満			750GT未満			1000GT未満			1600GT未満			3000GT未満			3000GT以上			合計		
	隻数	員数	平均員数	隻数	員数	平均員数	隻数	員数	平均員数	隻数	員数	平均員数	隻数	員数	平均員数	隻数	員数	平均員数	隻数	員数	平均員数	隻数	員数	平均員数
27	164	520	3.2	229	1,132	4.9	158	1,012	6.4	54	475	8.8	22	212	9.6	44	461	10.5	100	1,115	11.2	771	4,927	6.4
28	188	622	3.3	257	1,338	5.2	166	1,105	6.7	66	602	9.1	17	174	10.2	40	429	10.7	115	1,315	11.4	849	5,585	6.6
29	165	575	3.5	248	1,320	5.3	164	1,101	6.7	70	620	8.9	16	158	9.9	40	443	11.1	116	1,356	11.7	819	5,573	6.8
30	159	548	3.4	270	1,438	5.3	156	1,069	6.9	69	613	8.9	14	141	10.1	35	380	10.9	110	1,272	11.6	813	5,461	6.7
元	168	577	3.4	271	1,427	5.3	146	1,013	6.9	65	582	9.0	13	133	10.2	33	353	10.7	118	1,364	11.6	814	5,449	6.7
計	844	2,842	3.4	1,275	6,655	5.2	790	5,300	6.7	324	2,892	8.9	82	818	10.0	192	2,066	10.8	559	6,422	11.5	4,066	26,995	6.6

※ 令和元年度の各船型の平均乗員数は、5年間の平均員数は上回っているものの、前年より乗員数が下回っている船型も見受けられる。

## ② 予備員率

年度	乗船中	下船中	計	予備員率
27	4,927	1,751	6,678	1.36
28	5,585	1,997	7,582	1.36
29	5,573	1,948	7,521	1.35
30	5,461	1,983	7,444	1.36
元	5,449	2,068	7,517	1.38
計	26,995	9,747	36,742	1.36

※予備員率は5年間平均で1.36、  
元年度は1.38で、平均を若干上回る。

## ③ 臨時・派遣船員数と比率

年度	合計 船員数	自社・ 家族 船員数	臨時・ 派遣 船員数	臨時・ 派遣 比率
27	6,678	6,337	325	4.9%
28	7,578	7,248	330	4.4%
29	7,521	7,185	336	4.5%
30	7,444	7,060	384	5.2%
元	7,517	7,142	375	5.0%
計	36,738	34,972	1,750	4.8%

※臨時・派遣船員割合は5年間平均で4.8%、  
元年度は5.0%で、平均を若干上回る。

## ④ 臨時・派遣船員の職種別内訳

年度	職員 (甲)	部員 (甲)	職員 (機)	部員 (機)	計	職員 (甲機) 割合
27	118	106	93	8	325	64.9%
28	119	115	88	8	330	62.7%
29	120	114	89	13	336	62.2%
30	159	112	100	13	384	67.4%
元	145	113	103	14	375	66.1%
計	661	560	473	56	1,750	64.8%
割合	37.8%	32.0%	27.0%	3.2%	100.0%	

※臨時・派遣船員は6割以上が職員として就労、機関に限れば約9割。

## (考察)

## 1. 安全最小定員数と実乗船員数

船員法等を遵守する最小船員数は、航海時間16時間超500トン未満の法定定員は、航海士2名+1名(航海当直要員)、機関士2名の計5名となる。さらに着離棧、荷役作業を考慮すると最低6名は必要となる。500トン未満船の5年間平均での実乗船員数は5.3名となっており、ギリギリの員数で運航している船舶が多数あるものと推測される。

## 2. 予備員数

令和元年度の予備員率は上表のとおり1.38(5年間平均1.36)である。年間休日110日(休暇105+乗下船5)を付与するための理想の予備員率を1.43として逆算すると約260名が不足していることとなる。また、この値を推計船員数9,120名(乗船中6,611名、下船中2,509名)で置き換えると、約330名の不足となる。

## 3. 臨時・派遣船員

令和元年度は、375名の船員が派遣され、特に、甲・機職員への派遣が6割以上を占めている。言いかえれば、375名の船員が自社で賄えない不足した船員と捉えることも出来る。

今後は、退職船員の増加により派遣船員の供給不足も考えられ、停船を余儀なくされる船舶が増加することが危惧される。

上表③では派遣船員比率は毎年5%前後となっているが、未回収船舶は派遣割合が高いとの推測もあり、より正確な実態把握には回収率の向上が課題である。

## 4. 船員不足への対応

船員不足の実態は、乗船定員、予備員率、船員派遣等、各々の調査結果に現れている。この結果に危機感をもって、若年船員確保や高齢船員活用等への対応を図る必要がある。

## 11. 船員対策委員会からの提言

- (1) 小型船の船員確保対策は、船主、オペレーターが協力して実施する必要がある。
- (2) ベテラン船員の多数退職によりレベル低下が懸念され、技術の伝承を早急に行う必要がある。
- (3) 新卒採用数の増加と併行して、若年船員の退職防止と業界内へのつなぎとめ対策を図る必要がある。
- (4) 女性船員の確保・活用をさらに進める必要がある。
- (5) 船員年齢層の大きな山が60歳以上へと移行していく中、安全確保のため労務の分担見直しと軽減をさらに進める必要がある。
- (6) SOx規制による新燃料油の使用や暫定措置事業終了による建造方式の変更により、業界環境も大きな変わり目を迎えている中、船舶の技術革新を今以上に進める必要がある。
- (7) 国土交通省で検討され本年度に結論が出される「内航船員の働き方改革」については、内航業界及び事業者の積極的な対応により船員の働き方改革を推進し、事業者だけで対応出来ない問題に関しては、荷主や行政への理解、協力を求める必要がある。

以上